

# 序

渡辺公観先生は平成 16 年の秋ごろから体調を崩され、しばらく療養生活をおくられた後、平成 17 年 2 月にご逝去された。定年まで 1 年以上を残し、あまりにも早いお別れだった。まだまだご活躍いただけたはずであり、誠に残念と言うほかない。

先生は昭和 15 年に大阪府にお生まれになり、香川大学経済学部をご卒業の後、いったん企業に勤務されてから、神戸大学大学院経営学研究科に進学され、昭和 44 年 4 月に本学部にて助手として赴任された。先生はその後、講師、助教授を経て、平成 14 年に教授に昇任された。先生が担当された主な授業科目は、商業経済学とマーケティングであり、毎年多くの学生が受講した。また、先生の演習から多くの学生が社会に巣立っていった。学内行政では学生補導委員長を務められ、その運営に中心的な役割を果たされた。学部・大学院改組により市場環境学科・市場環境学専攻が発足する時には、新学科・新専攻検討委員会のメンバーの 1 人となり、新学科・新専攻の主要な担い手となった。

先生のご研究は商業経済学の観点から流通システム全般を検討しようとするものであり、流通システムの歴史的発展過程を出発点として、マネジリアルマーケティングや消費者問題に理論的な接近を行った。その研究領域は、マーケティング管理におけるチャネル戦略、国内および海外の市場問題、社会的・個別的流通費用の問題、日本企業が行なってきた系列化の外国企業の参入障壁としての問題など幅広い分野にわたっている。

先生は社会活動にも献身的に取り組み、地域自治体や商工会などに対して、研究から得られた成果を積極的に還元した。先生は、大阪市中央区、岸和田市、和泉市、泉南市、熊取町の各地域において、小売商業の現状分析をもとに問題点を明確化するとともに、後継者問題や駅前商業の活性化などへの提言を行なった。

和歌山大学経済学会は、先生の生前のご功績に敬意と感謝の気持ちを表すた

め、本号を先生の追悼号とした。ご遺徳をしのいで寄せられた学内外の縁の方々からなる一冊を謹んでご霊前に捧げ、先生の安らかなご冥福を心よりお祈りしたい。

2006 年 3 月

和歌山大学経済学会会長

乗 杉 澄 夫